

Bluff Archives Monthly News

2019年7月

発行 NPO 法人横浜山手アーカイブス

826, Daijingu-yama

7月に開催された企画展 **BLUFF STORY2 新関コレクション** 展示古写真から、山手周辺の写真を紹介したい。



北方町 826 番地
(大神宮山)
1920 年
(新関光二氏提供)

この場所は、現在の中区西之谷町 63 番地、山手居留地から本牧通りを挟んで南方の丘陵上である。1916（大正 5）年の「横浜土地宝典」によると、当該地である地番北方町字西ノ谷 826 は、「地目：宅地、坪数：367.05 坪、所有者氏名：トーマス・エドワード・ビーチ」となっている。建物は高台にあり、玄関へと続く石の階段と半円形の排水溝が写っている。

法務局土地台帳には「1909（明治 42）年 6 月 7 日ヨリ 999 年マデ地上権設定トーマス・エドワード・ビーチ」の記載がある。また移記閉鎖家屋登記簿によると、当該地には 1917（大正 6）年、北方町字西ノ谷 919 番地英国臣民エドワード・トーマス・ビーチ所有の建物が、少なくとも 2 棟確認できた。①木造瓦葺平屋、建坪 29.819 坪②同、4.5 坪。写真の建物は二階建てに見えるので、さらに別の建物があった可能性もある。

ジャパンディレクトリの同地番には 1905 年から住民が確認でき、短い期間で多くの外国人が入り替わり暮らした。

また同「土地宝典」には西ノ谷の地番所有者にパウデン、アーヴン、シフナー、ロードの名があり、大正期には居留地周縁にも外国人の土地の所有が広がっていたことがわかる。

ビーティ氏は、英国出身の Thomas・Edward・Beatty（～1917 年）で、ジャパンディレクトリなどの資料で確認できる内容を挙げてみる。その生涯を神戸と横浜で送り、造船業に携わった人物であったようだ。

1879～84 年キルビー経営の神戸鉄工所ボイラー技士、1885～87 年には、神戸の小野浜造船所、（お雇い外国人、海軍省小野浜造船所に製造係長として 3 年雇用された記録がある）1888～96 年 日本郵船会社横浜鉄工所、このうち 1892 年まで山手の数か所に住所が確認できる。1896 年、同横浜鉄工所が横浜船渠に吸収合併、同時に横浜船渠に移ったと思われる。1901～03 年横浜船渠、1907～16 年、居留地 161 番地ピーターソン経営横浜機械鉄工所、1917 年に大神宮山 826 番地となる。

ちなみにビーティ氏の息子ジョージは、東京高等学校講師であったが、第二次世界大戦時に神奈川第一抑留所（横浜競馬場→足柄上郡内山）に終戦まで抑留された。

写真に撮影場所と時期の記載があったことから、そこに暮らした人々や所有者の姿が明らかになった事例である。（S）

<主な参考文献>

『横浜土地宝典 大正 5 年』 横浜開港資料館所蔵 1916 年

『資料御雇外国人』小学館 1975 年

『復刻版 Japan Directory』ゆまに書房

『神戸鉄工所の破綻と海軍小野浜造船所の成立』弘前大学リポトリ 2015 年

『敵国人抑留』吉川弘文館 2009 年

『図説横浜外国人居留地』横浜開港資料館 2002 年

※ビーティ氏の職歴については、日本郵船博物館館長代理佐藤芳文氏にご教示をいただきました。御礼申し上げます。